

現地活動記録_参加者:久米、Ms.Wilma

2023年	活動	宿泊地
9月29日(金)	・東京羽田からマニラへ移動(ANA)	マニラ
9月30日(土)	・マニラ(AM04:10)からカガヤンデオロ(Am05:50)へ移動 ・Lantud村の訪問	カガヤンデオロ
10月1日(日)	・Flowing Grainの訪問と協働への協議	カガヤンデオロ
10月2日(月)	・Flowing Grainの訪問:アバカ関連情報収集	カガヤンデオロ
10月3日(火)	・カガヤンデオロ市内の情報収集	カガヤンデオロ
10月4日(水)	・ブトワンへ移動 ・TESDAのRegional Center訪問	ブトワン
10月5日(木)	・カラガ地方の20の少数民族の部族長14名の集会にオブザーバー参加 ・TESDA地方局長と懇談 ・TESDA水産訓練校視察 ・マニラへ移動	マニラ
10月6日(金)	・活動整理	マニラ
10月7日(土)	・活動整理	マニラ
10月8日(日)	・JICA事務所職員と懇談 ・活動整理及びビジョン形成	マニラ
10月9日(月)	・TESDA総裁への表敬訪問 ・日系企業社長と協議(情報や意見交換)	マニラ
10月10日(火)	活動整理及びビジョン形成	マニラ
10月11日(水)	・マニラから成田へ(ANA)	帰国



私たちの活動地域

今回の活動場所及び活動を共にした人たち

1. 主な活動場所:表紙の右図及びこの右図を参照ください

➤ カガヤンデオロ、ブトゥアン及び首都圏マニラ

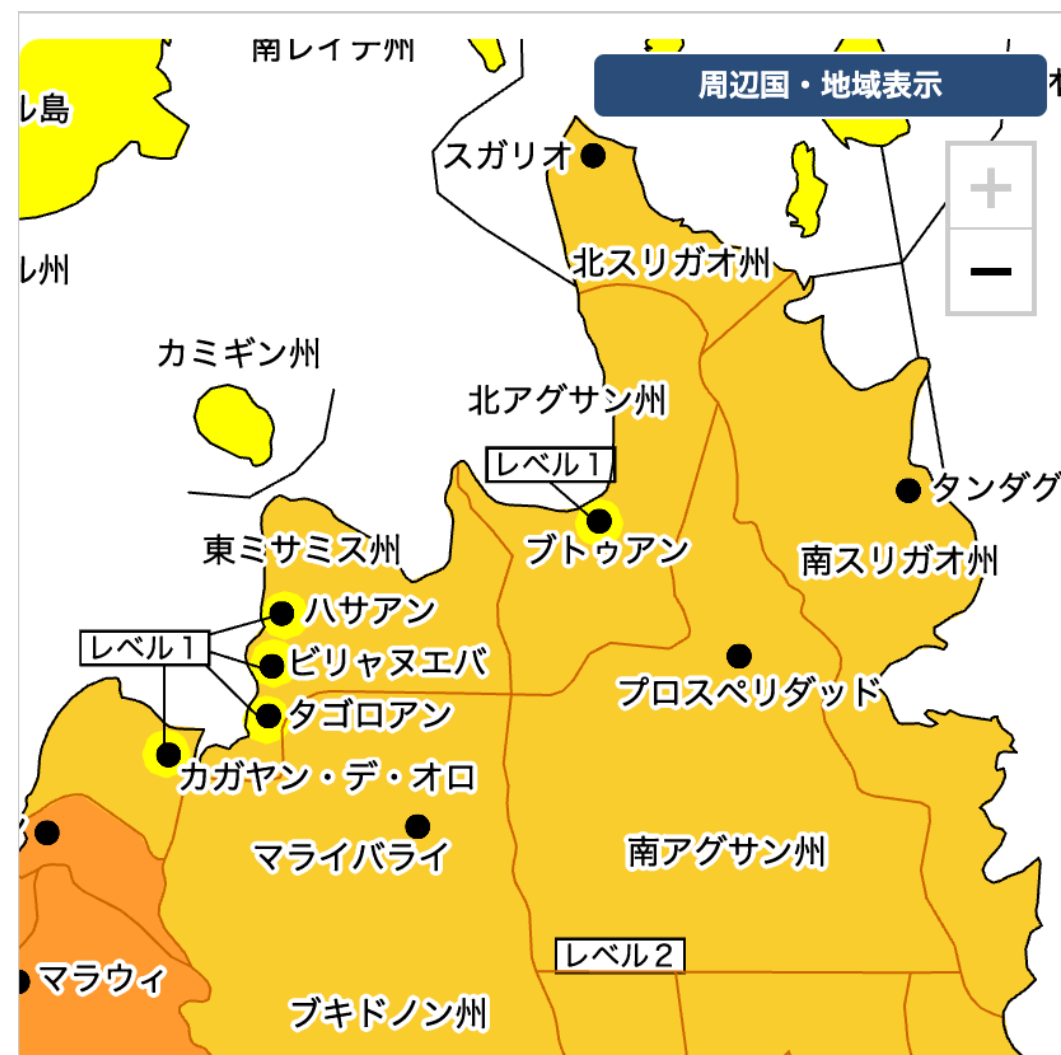
2. 活動を共にした主な人たち

➤ Flowing GrainのBobbyさんと奥さんのMarisさん
輸送業、農業、オンライン販売、認定訓練センターを営む企業

➤ PhilFIDA地方局の局長のユージンさん
Philippine Fiver Industry Development Authority
(フィリピン繊維産業育成機構)

➤ TESDA地方局(ブトゥアン市)および傘下の水産訓練校のみなさん
-TESDA Regional Director of Caraga
局長のJerry Tizon さん及び職員の皆さん
- TESDA Northern Mindanao School of Fisheries
校長のNancy C. Guzmanさん及び職員の皆さん

➤ Lantud村(ブギドノン州)の人たち



出典:外務省ホームページ

本情報は2023年09月23日(日本時間)現在
フィリピンの危険情報【危険レベル継続】

活動紹介① - Lantud村の訪問



ドリアン



ファルカタ



アボカド



コーヒー



カカオ

活動記録：

- 6月に亡くなった村のリーダーと副リーダー（二人ともイスラム教のスルタン）に変わって、スルタンの息子であるアブダラ君が新しいリーダーになっていた。
- 広大な土地には、バナナの他に上の写真で紹介したような果物や木材（家具、薪などに使用）の植樹を始めた
- また、PASC支援で始めたセラピア養殖も、村民が自分たちで2ヶ所の池を建設していた。
- 前回のセラピア養殖は失敗しており、その後村人が養殖技術の研修を受けて再スタート準備中である
- これからの支援の一つに、成長の早いファルカタを植樹して、その日陰にアバカの苗木を植える

活動紹介 ② - Flowing Grain社訪問



写真は、ボビーさんとマリサさんの若い夫婦が所有するFlowing Grainの約3ヘクタールの土地です。彼らは、この土地で、輸送業、職業訓練施設、農園、畜産のビジネスを展開しています。また、その他にもオンラインによる商品販売、マンションのオーナーなど手広く経営しています。

今後、PASCはPhilFIDAと共に、以下のようなFlowing Grainの活動を支援していきます。

*この土地でアバカの育苗から収穫及び繊維抽出のモデルセンターを建設する

*このセンターでアバカの生産性向上の調査・研究・開発を行う

*このモデルセンターはTESDA認定の職業訓練施設となり、先住民族の農民を教育する



活動紹介③ - PhilFIDA Region 10 Office 訪問



PhilFIDA地方局事務所にて



局長のユージンさん



アバカの苗

10月2日、PhilFIDA (フィリピン繊維産業開発庁) の地方事務所をFlowing Grainのボビーさんと訪問

*局長のユージンさんとの交流は2年目に入った

*昨年10月にはユージンさんとマックさんと一緒にアバカ生産研修コースを開発しました

*今後も、農園の整地、堆肥、品質検査などの研修コースやカリキュラム開発の支援を行う予定です

活動紹介 ④ - TESDA訪問



TESDA地方局



TESDA地方局長と



TESDA水産訓練センターにて



TESDA地方局の職員さんたちと



マニラのTESDA総裁を表敬

今回のフィリピン渡航では、3ヶ所のTESDA機関を訪問

- ① ブトワン市にあるTESDA地方局:カラガ地方にも先住民族が多く、この地方での支援を視野に交流開始
- ② 同じくブトワン市にあるTESDA傘下訓練施設の水産(特に魚の養殖)訓練コースがある
*テラピア養殖コースがあり、設備も指導員も揃っている。ここで訓練受講してみたい。
- ③ 幸い、就任して間もないTESDA総裁への表敬訪問が実現
*忙しいスケジュールにも関わらず、1時間は半ほど昼食をとりながらお話しできた

活動のまとめと今後の活動計画

ブギドノン州の先住民族等生計向上支援

活動のまとめ

- 今年の4月段階では、今年度も「JICA草の根パートナー型」の再挑戦（申請）を計画していたのですが、不採択の理由の一つであった我々の支援するミンダナオ島の活動地域が、外務省では「不要不急の渡航は止めてください」であり、その代替地域が探せずに見送ることとしました。
- 今回の現地入りではカガヤンデオロやブトワン地域での候補地及び協力者との交流を目的としました。

今後の活動計画

- PhilFIDAとコラボして、ミンダナオ島の貧しい先住民族の人たちのアバカの生産性向上による、生計向上支援活動を継続します。
- TESDA及びPhilFIDAとコラボして、Flowing Grain社をアバカ生産性向上のR&D及び農民への教育訓練拠点を支援します。
- この活動が将来の草の根申請になるよう育てます。

アバカ1000本オーナープロジェクト（アバカについては次のスライドをご覧ください）

プロジェクト骨子

- Flowing Grain社とPhilFIDAはアバカ生産に関心のある先住民族の地主と交渉して、1000本のアバカの苗を植樹する
- PhilFIDAは、年間費用と収益を試算したデータを作成していた。初期投資金（雇用費込み）：77,734ペソ（約20万円）
- ☞土地の整地、肥料、輸送費、苗木の植樹、定期消毒、収穫、繊維の抽出など
- PASC社は、現地の準備ができ次第契約し、PASC社がそのオーナーとなる
- 約1年間のモニタリングを行い、試算と実際の投入資金や収益を確認する。
- この収益は、現地のNPOもしくは組合などを設立して、先住民族の生計向上支援金として運用する。
- この活動は、他のNGOや企業にも支援の広報を行い、先祖から残された広大な土地（荒地）をアバカ農園へと開拓する。
- 公正な取引や生産者への安定収入つながるサプライチェーンを構築する☞特に買い手の開拓
- 生産性向上のためのアバカ繊維抽出作業の機械化、並行してワークシェアリングの観点から求職者のパートタイムとして伝統的な手漉き装置の拡充を図る。



アバカ (マニラ麻) の紹介①

写真提供: 久米

アバカ農園



アバカ繊維

写真提供: 久米



資料提供: PhilFIDA



アバカを使ったシートは絶縁抵抗に優れ電気自動車生産の需要が高い
currency paper



Japanese yen (60% Abaca)



Philippine Peso (20% Abaca)

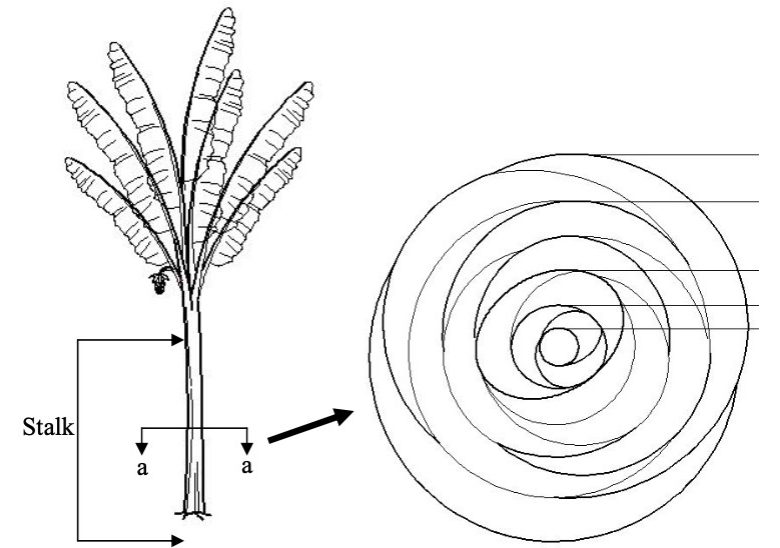
PhilFIDA: フィリピン繊維産業開発庁
資料はPhilFIDAセミナーテキストから引用

アバカの紹介②

アバカは世界的に供給不足状態

2019年7月の「フィリピン国 スピントルマシンを利用した 産業用特殊紙原料(マニラ麻)の 品質・生産性向上に向けた案件化調査業務完了報告書」によれば、

『ここ5年ほどの市場動向として、①世界的に新技術によるコーヒー・サーバーが開発され、それに使用される特殊フィルター需要が伸びていることが注目される。また、②車載用コンデンサー絶縁紙(EV、ハイブリット車向け)、③太陽光パネル蓄電システム、④紅茶・出汁パック等食品フィルター、⑤産業用特殊テープ基材、⑥衣料用紙系(大型量販店を通じ、夏場のアイテムとして期待)等の製品の需要も伸びつつある。これに伴い、産業用特殊紙原料として使用される天然繊維であるマニラ麻(高品質)の需要が大きく伸びているが、需要に供給が追いついていない状況である。世界の産業用特殊紙メーカーは、品質の良い原料(マニラ麻)の供給が限られることから、原料の価格高騰に直面し始めている。このことが、現在の産業用特殊紙製造分野の課題と認識されている。』



アバカ (マニラ麻) の紹介-③

- フィリピンは世界需要の85.5%を供給
- 年間1億1,365万米ドル (2013年~2017年) を稼ぐ商品
- フィリピンは最も丈夫で上質なアバカ繊維の産地
- 準備が整った市場の需要と供給のギャップ
- 生分解性 (Biodegradable) で再生可能な資源
- 生産方法は生物多様性に優しく社会的

以上は、PhilFIDA セミナテキストから引用



☞ アバカの苗木は、ゴムやファルカタなどの木陰に植えるので土地の有効活用が可能

